

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

長野都市経営研究所

創刊号

1998.OCT.21

長野都市経営研究所

発行 / 長野都市経営研究所 〒380-0936 長野市岡田町178 長野バスターミナル会館3F TEL026-223-7900 FAX026-223-6166 http://www.nupri.or.jp

発行日 / 1998年10月21日(年4回)



「あいさつ」

NUPRI発足以来3年半の活動を振り返り、話し合いを重ねて、10月から新しい組織体制の下、10の研究部会がスタートする運びとなりました。「NUPRI NEWS」を会員相互の情報交換の媒体として、組織全体がより活性化することが期待されています。そこで、「NUPRI NEWS」創刊にあたり、齋澤正一理事長に抱負を語っていただきました。

「NUPRI NEWS」で 会員のコミュニケーションを図り、活動推進の原動力にしたいですね。

NUPRIが発足してから、今年の春で3年半が経過しました。その間に、セントラル・スクウェアやエムウエーブなど、いろいろな意味で実績を上げてきたと自負しています。

長野オリンピック開催期間中、商店街の1店一店運動を中央通り商店街で始めたところ、篠ノ井にも飛び火して、素晴らしい成果を収めました。オリンピックのようなビッグイベントのとき、あのような活動をする効果があることは、多くの人々に理解いただけたと思います。

しかし、オリンピックが終わった今、NUPRIの方向性を強く打ち出して、内部のコミュニケーションをもっと良くしなければいけないということが、大きな反省として出てきました。組織の作り方を見直し、全体で取り組む活動が必要なことなど、細かい反省点もたくさんあります。このような反省に基づいて、「コミュニケーション」を図る

ためにインターネットを作りましたが、我々の世代の中ではまだまだ無理があるので、やはり活字で読むものがほしいということになりました。そこで、「NUPRI NEWS」を機関紙として発行し、会の原動力にしたいと考えたのです。

10研究部会がスタートします。 長期的視野に立つてじっくりと 難しいテーマに取り組んでください。

長野オリンピック開催までは時間制限があったので、長期的視野に立つてじっくり活動することができませんでした。そこで、これからは時間の制限を取り払って、長期的な視点に立ち、じっくり腰を据えて研究したいと考えています。

研究部会をつくることはNUPRIの大事な仕事のひとつです。研究部会の組織づくりには4月から取り組み、テーマや担当者の選定に半年間かけてきました。8月に連続9日間、マラソン会議を開催した中で、みなさんが考えている長野市、あるいはオリンピックに対する思い入れなど貴重な意見が出され、それが10の研究部会としてまとまったのだと理解しています。マラソン会議はみなさんが自由に意見を発表する場として、大きな役割を果たしたと思います。

それぞれのテーマを見ると、一つひとつが大変重要で難しい内容です。NUPRIだけではとてもできないようなテーマもたくさんあります。すべてを自分でやるつもりでも、個人ではできないことばかりです。ある部分でなんらかの提言をし、だれかが行政に働きかけることで、何かが生まれてくることにつながります。

研究部会での取り組みをあせらないうでほしいと申し上げているのは、長野オリンピック開催前のような、今日明日という時間的制約がないことを理解いただきたいからです。それだけに求心力を求めるのは非常に難しいと思います。これからは、それぞれの研究部会がどういう方向性をもって、いかに推進していくかが重要なのです。

研究する過程で、いくつかの部会が力を合わせて取り組むこともあるでしょう。または、ある研究部会が分裂することもあるかもしれません。しかし今後、研究部会のテーマ自体を大きく変えるようなことはしないつもりです。時間をかけてじっくり研究に取り組んでいただきたいと思っています。



マラソン会議風景

セントラル・スクウェア、エムウエーブ 2つの事業をいかに運営するか。 これも大きな課題です。

10の研究部会のほかに2つの特別委員会があります。これはすでにオリンピック前から継続している事業で、社会的責任が発生しているものです。途中で投げ出す訳にはいきません。一つはセントラル・スクウェアであり、もう一つはエムウエーブの経営問題です。セントラル・スクウェアに関しては、NUPRIの中で別組織として会社を作りました。エムウエーブに関してはNUPRIが4000万円の出資をして、私が代表取締役副会長に就任しています。経営に関しては責任重大です。第三セクターが全国的に赤字になっている中で、黒字経営をすることが当面の目標です。スケート施設ですから、一般の人々にスケートを楽しむだけという工夫して、氷のお客を増やすことが課題です。また、最新設備を整えたトレーニングルームの活用や売店の充実、貸館営業等にも知恵を出していきたいと思っています。

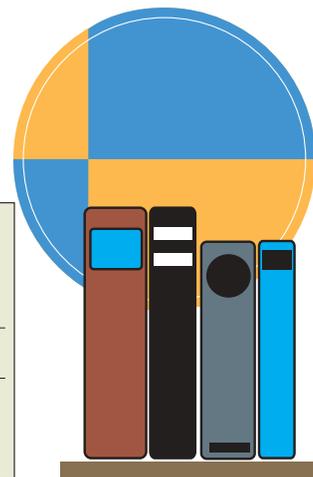
NUPRIは 単なる提言団体ではなく、 実行力を伴う団体です。

すべての経済団体の宿命だと思いますが、みんなそれぞれ自分の仕事もっている中で活動するのは大変です。しかし、それぞれの意見を生かす場が必要なんです。NUPRIは単なる提言団体ではなく、自分たちでできることは自分たちでやるという実行力を伴う団体でありたい。これが、当初からの目的であり趣旨です。行動が伴わなければ意味がないのです。

中央通りのセントラル・スクウェアをオリンピックの表彰式会場にするために、そして、その事が中央通りの活性化につながることを考え我々で会社を作り、お金を借りて土地を買い、どんどん進めてきました。それはそれなりに必要な事業でした。結果的に全世界から注目を浴びることとなり、あのアイディアは大きな実を結びました。

その成功を今後の基礎として、活発に活動しようと考えています。内部的には、さまざまな分野から研究者や講師を招いて講演会を開催し、積極的に勉強する機会をつくるのもいいでしょう。対外的には、さまざまな文化活動の後援をすることもあってほしい。それから「NUPRI NEWS」で方向性を打ち出し、会員相互のコミュニケーションを図って、活発な活動を推進していきますので、みなさまの協力をお願いいたします。

新組織体制・10 研究部会発足



新組織役員	
特別アドバイザー	小林俊雄
塚田俊之	仁科恵敏
松橋昭生	鈴木宗太郎
藤澤 博	
理事長	鷲澤正一
副理事長	鹿熊 肇
	田幸淳男
土屋磯司(事務総長)	青木恵太郎
市川浩一郎	小出昭雄

部会長、活動方針を語る

長野冬季オリンピック・パラリンピックが大成のうちに終わり、早いもので7月が経過しました。この間、NUPRIはオリンピック・パラリンピックを一つの節目として、新たな方向性を模索してきました。早朝会議をはじめとする活発な意見交換は、実り多いものでした。話し合いの場で、多くの方々の意見を聞き、また自らの考えを発表することで、一人ひとりが新たな目標を見出されたことと思います。平成10年10月、いよいよ内容を一新して10研究部会がスタートします。NUPRIの活動理念である「環境問題」「福祉問題」「新産業創造」は、現代社会の重要な課題です。この理念のもとに、従来の5研究部会から10研究部会へ、部会数を2倍に増やし、盛りだくさんのテーマを掲げました。では、それぞれの研究部会と役員のお顔ぶれ、部会長に語っていただいた活動方針ならびに抱負をご紹介します。それぞれの研究部会で活発な討議を重ね、積極的にさまざまな研修や勉強に取り組み、さらに研究部会同士の活発な情報・意見交換をして、民間ならではの独創的な提言へと結実することを期待しております。

事務局長 山口信行

第1研究部会

情報インフラの活用の研究

部会長 北村正博
副部会長 清水 博・轟 和昌



ハイテク五輪と言われた長野冬季五輪の後、高速交通網は地域産業に大きな効果をもたらしましたが、情報インフラは地域に反映しているのでしょうか。フルネットセンターと併せて、郵政省が長野と松本にアクセスポイント設置を計画中の全国主要都市を超高速度で結ぶ情報網ギガビットネットワークの活用方法を研究します。同時に、先進地と先端技術の視察勉強、子供たちが情報関連機器に慣れ親しむ環境づくりと啓蒙活動に取り組みます。

第2研究部会

関連諸都市及び地域との連携の研究

部会長 市村次夫
副部会長 土屋修三



生活環境は想像以上に拡大していますが、地域連携のイメージはあまり変わっていないようです。そこで、長野地域と種々の関連分野がある諸都市・諸地域とが連携し、行政当局や商工会議所・商工会などとテーマや課題を絞った討議会や研究会を開催して、広域の公共サービス・産業経済活動・観光事業・交流事業などの実情把握や将来方向について研究を重ね、関連地域や諸都市とのネットワークやラインの設定などを模索していきます。

第3研究部会

コンベンション・イベント誘致と活性化の研究

部会長 倉島圭三
副部会長 久保田俊一・二宮慶郎



コンベンション誘致を研究した結果、NECOを提案しましたが、未だ実現していません。そこで昨今のアンケート結果も踏まえ、具体的な活動に進めます。折りしもエムウエーブがスタートし着実な成果も見えてきている中で、実態としてNECOの活動の具現に向け、コンベンション誘致ターゲットの整理、コンベンション支援事業の研究と資料作成、エムウエーブ営業部と連携したコンベンション誘致、イベント企画などに取り組みます。

第4研究部会

長野市を中心とした公共交通網の研究

部会長 岩野 彰
副部会長 夏目 潔・清水光朗



企業経営者、高齢者、勤労者、女性、子供、観光客などさまざまな立場のフィルターを通して、長野市の公共交通網を見直したいと思えます。環境問題が叫ばれる中、新しい交通機関も考慮しなければなりません。少しの不便さは覚悟しても、未来の人々に良い環境を残していくために、NUPRIの他の部会とも連携をとりながら、住み良い、夢のあるまちづくりの一環としての公共交通網の研究、提案、実現を目指したいと考えています。



第5研究部会

中心市街地の活性化問題の研究

部会長 滝澤芳一
副部会長 竹村國彦



今日の中心市街地空洞化の進行は、長野市民全体の問題です。かつて善光寺信仰が全国に広まり、長野市が政治・経済・文化の中心としての役割を持った時代のように、どこよりも優れたものを探究することこそ街づくりの基本真理です。どこにもない、どこよりも誇れる街づくりを目ざして、道・広場・建物・街並みなどをいかに美しくデザインするかを全員の皆様と考えながら、具体的に市街地活性化の方法を見出したいと考えております。

第6研究部会

小学校統廃合と都市計画の研究

部会長 柳澤一夫
副部会長 佐々木修司・加藤 誠



昨今は、少子化の傾向により子供の数が激減し、さらに中心市街地の空洞化により、長野市中心部の小学校では児童数が減少の一途をたどっており、小学校統廃合の問題を考えざるを得ない状況にあります。この問題を都市計画を含めた課題として捉え、民間としての提言ができればと考えています。大変難しい問題ですが、当面は関係当局よりヒアリングを行い、その中から切り口を見出したいと考えています。

第7研究部会

学校・研究機関等
作りの研究

部会長 星澤哲也



長野市が平成3年度に策定した「長野北新都市開発整備事業」を中心として、まず現状の把握と分析を行い、事業推進に向けての課題などについて、民間としての提言や、どのような実践活動をしたら良いのかなどの研究に取り組みます。
当面は、関係当局のヒアリングを重点的に行い、その中から方向性を見出していきこうと考えています。



第8研究部会

新産業・アミューズメントの創出による
地域活性化の研究

部会長 竹内伊吉
副部会長 掛谷嘉則・中川信幸



健康で豊かな暮らしにはセキュリティ、コミュニティ、アメニティ（快適性）の優位性が重要です。そこで成功事例を踏まえながら、アミューズメントリテールサービスを核にしてオリンピック施設を展開します。また、インフラ整備が進んだ長野市を中心としたオリンピックゾーンで、バランスのとれた活力ある産業環境の整備をより進めるために、通産省の地域新産業創造促進法（仮称・次期国会に提出予定）を先取して展開する予定です。

第9研究部会

中核都市行政の在り方
（含む）の研究

部会長 笠原甲一
副部会長 家中 隆



平成6年の地方自治法改正により中核都市制度が創設され、平成10年4月1日までに21市が移行しました。長野市は、人口30万人以上、面積100平方キロ以上、人口が30万以上50万未満の都市にあつては昼夜間人口比率が100を超えるという要件を満たす長野県唯一の都市として、来年移行する予定です。そこで長野市の今後の姿を展望し、地域の経済圏域に占める役割、中心地的機能の内容などを明らかにし、行政に提言したいと考えています。

第10研究部会

オリンピック施設の
活用の研究

部会長 山本方俊
副部会長 丸田次郎・塚田芳樹



オリンピックレガシーにより変貌した長野カラーの研究を進め、オリンピックゾーンそれぞれの特徴をより鮮明にすることにより、行政の枠を越えた連携態勢を構築するとともに、文部省・JOC（日本オリンピック委員会）が提唱し、サッカーくじ法案が国会を通過した場合考えられるナショナル・トレーニング・センター誘致の必要条件の一つとされている、スポーツ医学に関する諸施設誘致研究を早急に進めていきたいと考えております。

特別委員会の抱負

セントラル・スクウェア特別委員会
委員長 藤澤 博



長野オリンピックの成功により、セントラル・スクウェアの名前は広く世界に発信されました。この事業は民間の力を結集した成果であり学ぶことが多かったと思っています。長野市の将来を考えたい場合、セントラル・スクウェアはどうあるべきか、各界・各層の意見を集約して最善の方針を導きたいと思っています。

エムウェーブ特別委員会
委員長 青木恵太郎



世界的にトップクラスの屋内スケートリンク エムウェーブはスケートの振興や国際的な競技大会、夏期は各種スポーツ大会やイベント会場として活用を図り、地域経済の更なる発展を願う。

都市開発メッセージ

梅澤忠雄都市計画
設計事務所

ポストオリンピックの都市戦略

「長野スポーツ・インスティテュート」の提案

都市開発プロデューサー 梅澤忠雄

まったく新しいタイプのリゾートとして1996年2月9日に、デイズニー・インスティテュートがフロリダ・オーランドにオープンしました。450室の宿泊施設がありますから、キャパシティとしては1000人以上です。そこに知的好奇心を刺激す

「デイズニー版・生涯学習村は、周年100%稼働のビジネスになる」

裕福な大都市のシニア世代をメインターゲットとして作られた大人のリゾート

現在、日本は勿論のことアジア経済全体がたいへんな低迷の状況にありません。当然のことながらそんな中では、新たな開発に対する新規投資には非常に慎重にならざるを得ません。しかしながら考え方によっては、長野市では前回のオリンピックを契機に、スポーツ施設をはじめとする様々な施設ができ、新幹線等多くの都市基盤、インフラ整備も行われました。問題は、これらの施設をどのように活用するかを、長野の地域社会だけで考えるのではなく、日本中、全世界を視野に入れて考えていく必要があるということです。新幹線に限って言えば、良く言われることですが、何もしなければ東京からの流入客が増えるより、長野から東京への流出客が増えるということや、観光客が増えたとしても今迄以上に日帰り客の割合が多くなるなど、マイナス要素が大きくなる可能性もあるのです。この機を逃さず、既にある施設と環境を巧みに活用し、新たな投資を最小限に押さえた新しい集客システムをつくり出さなければなりません。

そこで一つの方向として、今後更に高齢化が進み、多くのシニア世代の人々が時間とお金を持て余すようになる時代に、そのマーケットを先取りした事業展開をしているおもしろい事例を紹介いたします。



デイズニー・インスティテュートのシティー・センター及び湖を囲んで建てられている宿泊コテージ。シティー・センターには、屋外シアター、スポーツジム、教会、映画館などが整然と配置されている。

まいったく新しいタイプのリゾートとして1996年2月9日に、デイズニー・インスティテュートがフロリダ・オーランドにオープンしました。450室の宿泊施設がありますから、キャパシティとしては1000人以上です。そこに知的好奇心を刺激す

さまざまなプログラムが80コース余り用意されています。スポーツから食事、絵画、ビデオでの映画製作など、今流行りのありとあらゆるカリキュラムを3泊4日か1週間の滞在で先生から教わるというリゾートです。これはアメリカ東海岸の、ニューヨークやシカゴの裕福なシニア層をマーケットとして始めた事業です。これが大変受けて、ニューズウィークなどにも紹介されているのですが、周年100%稼働のリゾートの街です。ここでは大都市で名を売ったハリウッドの映画監督や、スポーツ選手でリタイアされた方たち、有名タレントが滞在しています。先生といっしょに滞在して教わるということが非常に価値があるということとで、日本の生涯学習村よりは数段進んでいて、それがビジネスになるということをやっているのけています。これは、最も先端的な地域開発のノウハウだと思えます。

高齢化社会ですから、スポーツでも今までやってきたものと違うもうひとつ新しいものを覚えましょう、とか、奥さんが亡くなられてしまうと男性は料理が出来なくて身体を壊すケースがありますから、健康のことに關心を持ちましょうということとで料理教室なども受けています。いわゆるリタイアメントの街とは違い、お客は始終入れ替わります。しかしリゾートホテルとも違う。今までの生涯学習とも違う、新しい考え方、面白いノウハウを持ったデイズニー・インスティテュートです。

アメリカの古き良き時代の街並みを再現したシティー・センター
環境と一体となったテーマ性のある建築計画がローコストであることを感じさせない
シティー・センターは、アメリカの古き良き時代の街並みを再現し、宿泊施設はプライベートな湖を取り囲んで配置されています。もともとあったフロリダの湿原を上手く利用して作っています。ほとんどの施設が木造の2x4の安普請で作られています。現代人がノスタルジーを感じる時代設定とし、パステル調の色を多用しながら全体として落ち着いた街並みに仕上げていることで成功しています。ローコストで作りましたが、水や緑などの環境を利用して非常に巧みに計画すること、そしてインスティテュートというソフトで高額の料金をとることができるのです。

デイズニーのノウハウを最大限に活用したプログラム
講師陣は一流のプロがリゾート内に滞在しゲストと活動を共にする
講師陣は個人の創作活動をより活

以上、デイズニーのノウハウを活用した新しいリゾートを紹介しましたが、これを長野であれば、例えばスポーツを主なテーマにしてオリンピック施設や環境インフラとしてのゴルフ場、スキーゲレンデを最大限に利用した「長野スポーツ・インスティテュート」という運営組織を作つて、現在あるスポーツ施設、観光地を効果的に結びつけます。新幹線という足をフルに使って、都心のシニア世代や若者を自然の中に呼び寄せ、これまでオリンピックで活躍した選手(現役、OB)を講師に迎え、3泊4日または1週間というサイクルで魅力的なカリキュラムを提供します。観光客(生徒)は、彼等と一緒に滞在しながら、スポーツの技術を修得し、余暇を楽しむことができます。JRや大手の旅行社と提携したツアーを企画したり、またはインターネットを利用した独自の集客も

編集後記 長野オリンピック・パラリンピックが終わり、春から初秋にかけて新しいNUPRIを考え、実りの秋、いよいよ「NUPRI NEWS」が発刊となりました。第2号からは読み物をプラスして、年4回発行する予定です。「参加して、読んで、役に立つ」紙面作りで、会員相互のコミュニケーションを図って参ります。実りある「NUPRI NEWS」にするために、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。(広報委員会一同)

事務局紹介 事務局は長野バスターミナル会館3階にあり、小林、山崎、以上の2名で運営しています。これまでに事務局にいらしたことのない皆様も、どうぞ気軽にお立ち寄りください。
TEL026-223-7900
FAX026-223-6166



小林 清吾 山崎 美枝子